

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜594
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 11 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校跡地に建てており、近くに保育園があります。海や山も近く自然に囲まれています。1階平屋のホームなので、ユニット間の行き来が自由にでき、普段から交流を持たれています。ホームは総合福祉施設の一事業所であり、他の事業所と合同で行事が行われたり、随時の看護支援が得られる等、日常的に連携が取れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の窓から真っ青な宇和海などの風景が眺められ、自然豊かな場所にある事業所は、高齢者総合福祉施設の1階部分にある。併設された事業所と合同で行事や催しものを実施するなど職員は相互の連携をしており、利用者同士の馴染みの関係もできてきている。管理者は、日頃から職員と一緒に介護に携わっており、職員とコミュニケーションは良く図られ良好な関係を築かれている。管理者は職員が働きやすいようシフトを組むなど職員からも信頼が厚い。資格取得に努力している職員もおり、利用者のサービスの向上に努めている。スタッフルームに提示している職員一人ひとりの笑顔の似顔絵で表現した介護目標メッセージを見るとほほえましく感じられ、管理者と職員が一丸となってケアに取り組んでいることを伺うことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 浜風

記入者(管理者)
氏名 那須 百合

評価完了日 平成 26 年 8 月 11 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合った決めた理念を共有し、実践に繋げていけるよう運営推進会議などで地域の方々に理解・協力が得れるように努めている。また、職員一人ひとりが目標を持ちいつでも見ていただけるように掲示している。	
			(外部評価) 法人の基本理念と基本方針を基にして、職員全員で話し合い、利用者の思いを大切にした事業所独自の介護理念を作成している。また、職員一人ひとりが1年毎の介護目標を作成し、日々意識できるようスタッフルームに提示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流は少ないが、地域の保育園行事への参加やお祭り、盆踊り等へ参加している。また、施設内での行事では、地域の方々に参加してもらっている。	
			(外部評価) 近隣の保育園から訪問があったり、保育園の運動会などの行事に参加したりして交流をしている。三味線や尺八などの地域ボランティアの訪問があり、利用者の喜ぶ姿が見られる。地域のお祭りや盆踊りなどにも利用者と一緒に出かけている。高齢者総合福祉施設で合同で行う夏祭りには、家族や地域住民に参加協力を呼びかけ、地域との交流を深める努力をしている。管理者は近隣に民家などが無く、日常的な交流がないため、運営推進会議などを通じて交流を広げていくことを試行錯誤している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において認知症のかたの特性や理解を図るために議題として取り上げたり、意見交換を行い理解していただけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、近況報告だけでなく運営推進委員の方も利用者と共にできるテーマにすることで、認知症の方とふれあう時間を作っている。会議で出た意見等は職員会で、報告し、話し合う場を設けている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、介護相談員、保育所長、他の事業所の管理者、町担当者等の参加を得て開催している。会議では事業所の状況や行事、課題等を報告するほか、利用者と一緒にところてんづくりをするなど交流もしている。また、三味線や尺八などのボランティアの訪問などを取り入れるなど、柔軟な取組みをしている。利用者との楽しい時間を過ごしていただき、委員から意見を言ってもらえるよう努力している。また、多角的な意見が得られるよう、新たな参加者の呼びかけを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 入所者の入退所や介護保険の更新の際に情報を共有したり、事故防止などの取組みで連携を図っている。毎月の介護相談員の受け入れや意見交換等も行っている。	
			(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子や取組みを報告するほか、意見交換などをして気軽に相談できる関係を築いている。また、毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話を聴き、相談や交流をしている。その内容は事業所に報告し、情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止委員会を施設で立ち上げている。身体拘束廃止のマニュアルや指針、不適切ケアのチェックシートを三か月毎に実施。勉強会を開催することで理解を深め職員全員で取り組んでいる。	
			(外部評価) 法人全体で身体拘束委員会を設け、職員全員が身体拘束の弊害や行為を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠せず、利用者が自由に入出りできるよう配慮しており、見守りのケアを徹底している。また、日々の業務の中で、地元の方言が利用者につき受け取られるケースもあるため、職員間で常に気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止委員会を施設で立ち上げている。虐待防止のマニュアルや指針、不適切ケアチェックシートを三か月毎に実施。虐待の種類やグレーゾーンなどへの理解をふかめるため勉強会を開催している。また、職員同士が声を掛け合いながら注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一部の職員は理解できているが、全職員の理解は乏しい。今後、地域包括支援センターの職員に依頼し勉強会の開催を検討していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項や契約書の説明を十分に行っている。利用者、家族の不安や疑問を尋ねそれに対して説明を行っている。入所後に不安を感じる事があれば、その都度説明している。料金の改定時には、口頭と文章で説明し理解や納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。また、発送時に意見や要望を記入できる介護計画確認書を同封している。要望は介護計画に反映し、疑問はその都度職員間で話し合い家族へ報告している。面会時には、家族に近況を報告し意見や要望が言いやすいように努めている。職員の異動等も家族へ報告している。	
			(外部評価) 日々のケアの中で、利用者から意見や要望を聞いている。家族の訪問時や運営推進会議等に意見や要望を聞くよう努めている。また、家族に意見や要望が記入できる欄を設けた介護計画確認書を送付して記入してもらっている。家族からあまり意見は出されないが、細やかなことでも対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見は個別や職員会議等で聞き、必要であれば主任会等施設全体で話し合えるような仕組みをとっている。また、主任会や衛生委員会等でも報告している。管理者は、職員にこまめに話をきいたり職員から気づいたことを言える雰囲気を作っている。 (外部評価) 管理者は職員にいつでも意見や提案を言いやすい関係が築けており、働きやすいようシフトを組むなど職員からの信頼も厚い。また、資格取得に前向きな職員もおり、サービス向上に努めている。外部研修を受講した場合には報告書を作成し、研修内容の共有にも努めている。管理者と職員からは一緒に事業所を良くしていこうとする姿勢が伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価や、職員一人一人の能力を把握し必要であれば部署の変更を行っている。また、得意分野を伸ばしていけるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修への参加する機会を確保し、スキルアップを図れるよう努めている。また、わからないことはその都度なんでも聞けるような体制作りをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議や相互訪問を行い、情報交換をおこなっている。グループホームだけでなく、他の事業所とも情報交換している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の顔合わせから、家族や本人の不安を解消していただけるよう同一職員が対応している。本人とゆっくり話ができる時間を持ち、思いや気持ち不安をくみ取れるよう努めている。入所後には、本人の安心が得られるよう職員が情報を共有するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で、家族が困っていること、不安なこと要望等に耳 を傾け、いつでもどんなことでも相談できることを伝えて 信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 面談時に本人、家族の要望を聞き法人全体や他職種の方の 意見を参考に、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に 考えるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 一人ひとりの人権を尊重し、誇りやプライバシーを損なわ ないように気をつけ、声かけや対応を行っている。料理、 園芸、行事などに助言を頂いている。助言を参考にすること で、共に支えあえる関係を築くように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 二か月に一度の便りで近況をお伝えしている。面会に来ら れたときには家族と話をするように努め、一緒に本人を支 える努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 利用者の馴染みの人との関係が途切れないように家族に協 力していただき、自宅への外出や外泊を行っている。馴染 みの方が訪問しやすいように努めるとともに、会いに行く ようにしている。 (外部評価) 親族や近隣の友人の訪問がよくあり、快い対応をしてい る。定期的に協力医の往診や訪問理容があるなど、繋がり を継続できるよう支援している。家族の協力を得て、自宅 に帰ったり、外泊をしたりするなど、関係継続できるよう 努めている。また、併設の高齢者総合福祉施設と合同で行 事や催しものを行う事が多く、利用者同士の交流により新 しい馴染みの関係が築けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が移動時には誘い合って行くことや、食事時に声をかけ合ったりされている。会話がかみ合わないときや、気分を損ねたりされるときには職員が仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了する前に、今までの経過や本人の状況、習慣、好みなど本人が安心して生活していけるように情報の提供を行う。また、できる限り会いに行けるようにしている。サービスが終了した後も、相談や支援に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを通して、本人の希望・要望を取り入れている。本人から聞くことが困難な場合は、家族と相談したり、本人の立場になって検討している。 (外部評価) 日頃から職員は利用者に関わる時間を大切にしており、居室や散歩時、入浴時など利用者と1対1となる介護現場で、思いや希望を聞いている。意思疎通が困難な利用者には、日常生活のしぐさや表情などから真意を読み取ったり、家族から情報を得たりしている。把握した内容は日誌や申し送りノートに記録し、職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談時に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を本人・家族に詳しく聞き把握している。また、入所後にも、新たに話された生活歴等を書き加えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のケース記録をこまめに行い、把握するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見や要望を聞き、本人の状態や職員の意見を反映して介護計画を立てている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、利用者毎の担当者と管理者を中心にきめ細やかなアセスメントを行い、介護計画の原案を作成し職員全員で検討している。完成した計画は家族に説明して承諾を得ている。月1回モニタリングを行い実施状況を確認している。必要に応じて見直しを行い、現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中・夜間の引き継ぎを十分に行い、情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設であり、グループホームでの生活が困難になった場合には、家族と相談し特別養護老人ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に来ていただいたり、ご近所の方には行事に参加していただいている。また、散歩に出た時等、地域の方とお話している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に一回、定期回診を受けている。また、異変時には 家族と主治医に聞き対応している。かかりつけ医以外の受 診は、家族が対応しているが、困難な時は職員が受診の協 力をしている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を、家族の協力を 得て継続して受診することができる。家族が受診介助でき ない場合は、職員が同行するなど柔軟に対応している。協 力医療機関と連携が取れ入院も可能となっており、緊急時 にも迅速に対応することができ、利用者や家族の安心に繋 がっている。2週間に1回往診があり健康管理をしてくれ ることから、ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医と している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特別養護老人ホームと併設のため、看護職員に相談したり 必要時には診てもらっている。また、回診時には看護職員 にも立ち会ってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、医師や看護師に 状態を聞き、早期退院ができるように医療機関との情報に 努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在看取りはしていない。重度化した場合には、些細なこ とでも家族に連絡している。また、医療機関とは密に連絡 をとっている。	
			(外部評価) 事業所では看取り支援の対応はしていない。重度化や終末 期の対応については早い段階から家族等と話し合ってお り、事業所で対応できなくなった場合は、併設の特別養護 老人ホームに移ったり、家族等が希望する所に転居など をしてもらったりしている。日頃から高齢者総合福祉施設 の利点を活かし、入院可能な協力医療機関との連携や併設 されている施設の看護師と連携を図りながら、利用者や家 族の意向に沿った支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応について、マニュアルを見やすい所に貼り、勉強会を行っている。消防署職員によるAED講習を実施する予定である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握し、災害時に利用者が避難できる方法を身につけ、避難訓練を実施している。火災だけでなく、津波対策の訓練も実施している。	
			(外部評価) 近隣に民家はなく海のすぐ側にある事業所は、地震発生時には津波被害の危険性が高い。高齢者総合福祉施設が合同で、消防署の協力を得た様々な災害を想定した非難訓練を実施している。愛媛県等が主催する伊方原発での災害を想定した訓練にも参加している。管理者は、近い将来南海地震も予測されていることから、必要な備蓄品を事業所独自で確保するなど、災害に関する対策を強化している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくりと温かい声かけに心がけている。居室に入る際は、やさしさをし本人の了解を得て訪室するようにしている。個人情報、ワーカールームに保管し、破棄する際はシュレッダーをかけるなど注意をはらっている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。日常生活の中で特に排泄の誘導や入浴時の支援など、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないよう気配りしながら対応している。調査当日の昼食時に、不機嫌な利用者に対して職員がその人のペースに合わせたやさしい声かけをして支援している場面を見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活のなかでも、自己決定ができるような声かけができるように努めている。本人が理解したうえで決めていただくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴は回数や時間をできるだけ本人の希望に添えるようにしている。一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類はなるべく自己決定していただくようにしている。在宅で使用していた化粧品等は、家族に協力していただき持ってきていただいている。また、理・美容は訪問内容に来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設の為、献立は栄養士が立てている。調理の準備や片付けはできる方に手伝っていただいている。季節感が味わえるように、野菜を育てたりしている。食事は、一緒にすることで楽しく食事ができるように努めている。	
			(外部評価) 高齢者総合福祉施設の栄養士が献立を作成し、ユニット毎に職員が調理している。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、職員が持ってきたお弁当と一緒に食べている。食事介助の必要な利用者には、職員が横に座りゆっくりやさしく声かけしながら支援している。食事の準備や下膳等、利用者のできることを把握し、職員と利用者が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で、個々の食事・水分量を把握している。食事や水分量が減ってきている方には、主治医や栄養士・家族と相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。就寝時には、義歯の洗浄を行い預かれる方は預かっている。また、義歯や口腔内に異常がある方は歯科医訪問時に診ていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。失敗した場合でも、本人が傷つかないように配慮している。	
			(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮して時間を見て誘導や声かけをしてトイレで排泄ができるよう支援している。職員は利用者の排泄のサインを見逃さないよう寄り添い観察し、対応している。便秘傾向にある利用者には主治医に相談するなど、水分摂取を行い見守りながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便の確認をしている。便秘の方には、水分補給、運動などを取り入れたり、主治医に相談しながら緩下剤でコントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い、体調の良い日は本人の希望を聞きながら、出来るだけ入浴してもらっている。入浴できない日は、シャワー浴・足浴・清拭等利用者個々の状態に応じて支援している。	
			(外部評価) 各ユニット毎に2つの個別浴槽があり、利用者は週2回を基本として入浴することができる。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し無理強いしないよう一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。また、季節に応じてゆず湯にするなど、利用者が入浴を楽しむことを大切にして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活ペースで午睡したり、夜間ゆっくり寝ていただけるように日中の活動に配慮している。夜間眠れない方には、出来る限り話を聞いたり安心して睡眠が出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は、ワーカー室の鍵をかけた棚で保管している。内服介助時は、個人の薬の種類、目的が記載されたボードを確認しながら介助行っている。内服薬変更時は、引き継ぎや申し送りノートを利用し周知徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえの手伝いをいつもしてくれる方、居室で読書される方、花札をされる方、カラオケを歌われる方等それぞれの役割を楽しみごとを見つけ続けていけるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所の中だけで過ごさず、日常的に外出できるように個別の支援を工夫している。本人の希望を聞き外出を行っている。	
			(外部評価) 事業所周辺は自然豊かで、季節の移り変わりを肌で感じながら散歩を楽しむことができる。多彩な年間の外出計画を立て、季節に応じて花見などに出かけられるよう支援している。近隣にある道の駅や温泉に出かけることは、利用者の楽しみの一つとなっている。利用者の高齢化に伴い、外出の要望など利用者から徐々に訴えが少なくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族よりお金を預かり、事務所で保管しているが、外出時は自分で払っていただけるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 贈り物へのお礼の電話や手紙をかいったりしている。また、携帯電話を持たれている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が味わえるような草花を飾ったり、利用者と一緒に飾りを作成している。畳の間には、冬はコタツを置いていた。室温は快適に過ごせるよう調節している。安全面に気をつけるようにしている。	
			(外部評価) 共用空間は明るく広々としており、大きい窓からは、自然豊かな宇和海が眺められ、季節の変化を感じることができる。ソファや畳コーナーがあり、利用者はのんびりと思いきいの場所でゆっくりくつろいでいる。壁には、利用者と職員と一緒に作成した作品を飾っており、心和む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファや畳の間があり、それぞれの場所で過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 安心できる居室づくりのために、使い慣れたものや馴染みのもの、家族が近くに感じられるように工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、床頭台、エアコン、クローゼットが完備されている。使い慣れた家具や愛用していた物品が持ち込まれているほか、利用者や家族の写真などが飾られ、居心地の良い空間となっている。独居生活で祖先を守ってきた利用者は、居場所が変わっても今までと変わらず仏壇にお供えをするなど、利用者に応じた習慣を続けられており、安心して過ごしている様子を伺うことができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の能力に合わせて、環境整備に努めている。状態の変化に対応できるように職員間で話し合い、今まで生活してきたことをなるべく変えないように工夫している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700367
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム 瀬戸あいじゅ
所在地	愛媛県西宇和郡伊方町川之浜594
自己評価作成日	平成 26 年 8 月 11 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊方町の小学校跡地に建っており、近くに保育園があります。海や山も近く自然に囲まれています。1階平屋のホームなので、ユニット間の行き来が自由にでき、普段から交流を持たれています。ホームは総合福祉施設の一事業所であり、他の事業所と合同で行事が行われたり、随時の看護支援が得られる等、日常的に連携が取れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の窓から真っ青な宇和海などの風景が眺められ、自然豊かな場所にある事業所は、高齢者総合福祉施設の1階部分にある。併設された事業所と合同で行事や催しものを実施するなど職員は相互の連携をしており、利用者同士の馴染みの関係もできている。管理者は、日頃から職員と一緒に介護に携わっており、職員とコミュニケーションは良く図られ良好な関係を築かれている。管理者は職員が働きやすいようシフトを組むなど職員からも信頼が厚い。資格取得に努力している職員もおり、利用者のサービスの向上に努めている。スタッフルームに提示している職員一人ひとりの笑顔の似顔絵で表現した介護目標メッセージを見るとほほえましく感じられ、管理者と職員が一丸となってケアに取り組んでいることを伺うことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム瀬戸あいじゅ

(ユニット名) 汐風

記入者(管理者)

氏名 那須 百合

評価完了日

平成 26 年 8 月 11 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合った決めた理念を共有し、実践に繋げていけるよう運営推進会議などで地域の方々に理解・協力が得れるように努めている。また、職員一人ひとりが目標を持ちいつでも見ていただけるように掲示している。	
			(外部評価) 法人の基本理念と基本方針を基にして、職員全員で話し合い、利用者の思いを大切にした事業所独自の介護理念を作成している。また、職員一人ひとりが1年毎の介護目標を作成し、日々意識できるようスタッフルームに提示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的な交流は少ないが、地域の保育園行事への参加やお祭り、盆踊り等へ参加している。また、施設内での行事では、地域の方々に参加してもらっている。	
			(外部評価) 近隣の保育園から訪問があったり、保育園の運動会などの行事に参加したりして交流をしている。三味線や尺八などの地域ボランティアの訪問があり、利用者の喜ぶ姿が見られる。地域のお祭りや盆踊りなどにも利用者と一緒に出かけている。高齢者総合福祉施設で合同で行う夏祭りには、家族や地域住民に参加協力を呼びかけ、地域との交流を深める努力をしている。管理者は近隣に民家などが無く、日常的な交流がないため、運営推進会議などを通じて交流を広げていくことを試行錯誤している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において認知症のかたの特性や理解を図るために議題として取り上げたり、意見交換を行い理解していただけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、近況報告だけでなく運営推進委員の方も利用者と共に行えるテーマにすることで、認知症の方とふれあう時間を作っている。会議で出た意見等は職員会で、報告し、話し合う場を設けている。	
			(外部評価) 運営推進会議は家族、区長、民生委員、介護相談員、保育所長、他の事業所の管理者、町担当者等の参加を得て開催している。会議では事業所の状況や行事、課題等を報告するほか、利用者と一緒にところてんづくりをするなど交流もしている。また、三味線や尺八などのボランティアの訪問などを取り入れるなど、柔軟な取組みをしている。利用者との楽しい時間を過ごしていただき、委員から意見を言ってもらえるよう努力している。また、多角的な意見が得られるよう、新たな参加者の呼びかけを検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 入所者の入退所や介護保険の更新の際に情報を共有したり、事故防止などの取組みで連携を図っている。毎月の介護相談員の受け入れや意見交換等も行っている。	
			(外部評価) 町担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の様子や取組みを報告するほか、意見交換などをして気軽に相談できる関係を築いている。また、毎月介護相談員の訪問があり、利用者の話を聴き、相談や交流をしている。その内容は事業所に報告し、情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束廃止委員会を施設で立ち上げている。身体拘束廃止のマニュアルや指針、不適切ケアのチェックシートを三か月毎に実施。勉強会を開催することで理解を深め職員全員で取り組んでいる。	
			(外部評価) 法人全体で身体拘束委員会を設け、職員全員が身体拘束の弊害や行為を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠せず、利用者が自由に入出りできるよう配慮しており、見守りのケアを徹底している。また、日々の業務の中で、地元の方言が利用者につき受け取られるケースもあるため、職員間で常に気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止委員会を施設で立ち上げている。虐待防止のマニュアルや指針、不適切ケアチェックシートを三か月毎に実施。虐待の種類やグレーゾーンなどへの理解をふかめるため勉強会を開催している。また、職員同士が声を掛け合いながら注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一部の職員は理解できているが、全職員の理解は乏しい。今後、地域包括支援センターの職員に依頼し勉強会の開催を検討していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には、重要事項や契約書の説明を十分に行っている。利用者、家族の不安や疑問を尋ねそれに対して説明を行っている。入所後に不安を感じる事があれば、その都度説明している。料金の改定時には、口頭と文章で説明し理解や納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。また、発送時に意見や要望を記入できる介護計画確認書を同封している。要望は介護計画に反映し、疑問はその都度職員間で話し合い家族へ報告している。面会時には、家族に近況を報告し意見や要望が言いやすいように努めている。職員の異動等も家族へ報告している。	
			(外部評価) 日々のケアの中で、利用者から意見や要望を聞いている。家族の訪問時や運営推進会議等に意見や要望を聞くよう努めている。また、家族に意見や要望が記入できる欄を設けた介護計画確認書を送付して記入してもらっている。家族からあまり意見は出されないが、細やかなことでも対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見は個別や職員会議等で聞き、必要であれば主任会等施設全体で話し合えるような仕組みをとっている。また、主任会や衛生委員会等でも報告している。管理者は、職員にこまめに話をきいたり職員から気づいたことを言える雰囲気を作っている。 (外部評価) 管理者は職員にいつでも意見や提案を言いやすい関係が築けており、働きやすいようシフトを組むなど職員からの信頼も厚い。また、資格取得に前向きな職員もおり、サービス向上に努めている。外部研修を受講した場合には報告書を作成し、研修内容の共有にも努めている。管理者と職員からは一緒に事業所を良くしていこうとする姿勢が伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価や、職員一人一人の能力を把握し必要であれば部署の変更を行っている。また、得意分野を伸ばしていけるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修への参加する機会を確保し、スキルアップを図れるよう努めている。また、わからないことはその都度なんでも聞けるような体制作りをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議や相互訪問を行い、情報交換をおこなっている。グループホームだけでなく、他の事業所とも情報交換している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初期の顔合わせから、家族や本人の不安を解消していただけるよう同一職員が対応している。本人とゆっくり話ができる時間を持ち、思いや気持ち不安をくみ取れるよう努めている。入所後には、本人の安心が得られるよう職員が情報を共有するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面談等で、家族が困っていること、不安なこと要望等に耳を傾け、いつでもどんなことでも相談できることを伝えて信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談時に本人、家族の要望を聞き法人全体や他職種の方の意見を参考に、様々なサービスの選択肢を提供し、一緒に考えるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりの人権を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように気をつけ、声かけや対応を行っている。料理、園芸、行事などに助言を頂いている。助言を参考にすることで、共に支えあえる関係を築くように努力している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 二か月に一度の便りで近況をお伝えしている。面会に来られたときには家族と話をするように努め、一緒に本人を支える努力をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の馴染みの人との関係が途切れないように家族に協力していただき、自宅への外出や外泊を行っている。馴染みの方が訪問しやすいように努めるとともに、会いに行くようにしている。 (外部評価) 親族や近隣の友人の訪問がよくあり、快い対応をしている。定期的に協力医の往診や訪問理容があるなど、繋がりを継続できるよう支援している。家族の協力を得て、自宅に帰ったり、外泊をしたりするなど、関係継続できるよう努めている。また、併設の高齢者総合福祉施設と合同で行事や催しものを行う事が多く、利用者同士の交流により新しい馴染みの関係が築けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が移動時には誘い合って行くことや、食事時に声をかけ合ったりされている。会話がかみ合わないときや、気分を損ねたりされるときには職員が仲介している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了する前に、今までの経過や本人の状況、習慣、好みなど本人が安心して生活していけるように情報の提供を行う。また、できる限り会いに行けるようにしている。サービスが終了した後も、相談や支援に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを通して、本人の希望・要望を取り入れている。本人から聞くことが困難な場合は、家族と相談したり、本人の立場になって検討している。 (外部評価) 日頃から職員は利用者に関わる時間を大切にしており、居室や散歩時、入浴時など利用者と1対1となる介護現場で、思いや希望を聞いている。意思疎通が困難な利用者には、日常生活のしぐさや表情などから真意を読み取ったり、家族から情報を得たりしている。把握した内容は日誌や申し送りノートに記録し、職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の面談時に、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を本人・家族に詳しく聞き把握している。また、入所後にも、新たに話された生活歴等を書き加えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々のケース記録をこまめに行い、把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意見や要望を聞き、本人の状態や職員の意見を反映して介護計画を立てている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞き、利用者毎の担当者と管理者を中心にきめ細やかなアセスメントを行い、介護計画の原案を作成し職員全員で検討している。完成した計画は家族に説明して承諾を得ている。月1回モニタリングを行い実施状況を確認している。必要に応じて見直しを行い、現状に即した計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) こまめにケース記録を行い、日中・夜間の引き継ぎを十分に行い、情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設であり、グループホームでの生活が困難になった場合には、家族と相談し特別養護老人ホームへの移行を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に来ていただいたり、ご近所の方には行事に参加していただいている。また、散歩に出た時等、地域の方とお話している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 2週間に一回、定期回診を受けている。また、異変時には 家族と主治医に聞き対応している。かかりつけ医以外の受 診は、家族が対応しているが、困難な時は職員が受診の協 力をしている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を、家族の協力を 得て継続して受診することができる。家族が受診介助でき ない場合は、職員が同行するなど柔軟に対応している。協 力医療機関と連携が取れ入院も可能となっており、緊急時 にも迅速に対応することができ、利用者や家族の安心に繋 がっている。2週間に1回往診があり健康管理をしてくれ ることから、ほとんどの利用者は協力医をかかりつけ医と している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 特別養護老人ホームと併設のため、看護職員に相談したり 必要時には診てもらっている。また、回診時には看護職員 にも立ち会ってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院にこまめに面会に行ったり、医師や看護師に 状態を聞き、早期退院ができるように医療機関との情報に 努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 現在看取りはしていない。重度化した場合には、些細なこ とでも家族に連絡している。また、医療機関とは密に連絡 をとっている。	
			(外部評価) 事業所では看取り支援の対応はしていない。重度化や終末 期の対応については早い段階から家族等と話し合ってお り、事業所で対応できなくなった場合は、併設の特別養護 老人ホームに移ったり、家族等が希望する所に転居など をしてもらったりしている。日頃から高齢者総合福祉施設 の利点を活かし、入院可能な協力医療機関との連携や併設 されている施設の看護師と連携を図りながら、利用者や家 族の意向に沿った支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応について、マニュアルを見やすい所に貼り、勉強会を行っている。消防署職員によるAED講習を実施する予定である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを把握し、災害時に利用者が避難できる方法を身につけ、避難訓練を実施している。火災だけでなく、津波対策の訓練も実施している。	
			(外部評価) 近隣に民家はなく海のすぐ側にある事業所は、地震発生時には津波被害の危険性が高い。高齢者総合福祉施設が合同で、消防署の協力を得た様々な災害を想定した非難訓練を実施している。愛媛県等が主催する伊方原発での災害を想定した訓練にも参加している。管理者は、近い将来南海地震も予測されていることから、必要な備蓄品を事業所独自で確保するなど、災害に関する対策を強化している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくりと温かい声かけに心がけている。居室に入る際は、やさしさをし本人の了解を得て訪室するようにしている。個人情報、ワーカールームに保管し、破棄する際はシュレッダーをかけるなど注意をはらっている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した支援に努めている。日常生活の中で特に排泄の誘導や入浴時の支援など、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないよう気配りしながら対応している。調査当日の昼食時に、不機嫌な利用者に対して職員がその人のペースに合わせたやさしい声かけをして支援している場面を見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活のなかでも、自己決定ができるような声かけができるように努めている。本人が理解したうえで決めていただくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴は回数や時間をできるだけ本人の希望に添えるようにしている。一人ひとりのペースや希望を大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類はなるべく自己決定していただくようにしている。在宅で使用していた化粧品等は、家族に協力していただき持ってきていただいている。また、理・美容は訪問理容に来ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 併設の為、献立は栄養士が立てている。調理の準備や片付けはできる方に手伝っていただいている。季節感が味わえるように、野菜を育てたりしている。食事は、一緒にすることで楽しく食事ができるように努めている。	
			(外部評価) 高齢者総合福祉施設の栄養士が献立を作成し、ユニット毎に職員が調理している。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、職員が持ってきたお弁当と一緒に食べている。食事介助の必要な利用者には、職員が横に座りゆっくりやさしく声かけしながら支援している。食事の準備や下膳等、利用者のできることを把握し、職員と利用者が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で、個々の食事・水分量を把握している。食事や水分量が減ってきている方には、主治医や栄養士・家族と相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。就寝時には、義歯の洗浄を行い預かれる方は預かっている。また、義歯や口腔内に異常がある方は歯科医訪問時に診ていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。失敗した場合でも、本人が傷つかないように配慮している。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮して時間を見て誘導や声かけをしてトイレで排泄ができるよう支援している。職員は利用者の排泄のサインを見逃さないよう寄り添い観察し、対応している。便秘傾向にある利用者には主治医に相談するなど、水分摂取を行い見守りながら支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) ケアチェック表で排便の確認をしている。便秘の方には、水分補給、運動などを取り入れたり、主治医に相談しながら緩下剤でコントロールを行っている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴前にバイタルチェックを行い、体調の良い日は本人の希望を聞きながら、出来るだけ入浴してもらっている。入浴できない日は、シャワー浴・足浴・清拭等利用者個々の状態に応じて支援している。</p> <p>(外部評価) 各ユニット毎に2つの個別浴槽があり、利用者は週2回を基本として入浴することができる。入浴の苦手な利用者には、声かけやタイミングを工夫し無理強いしないよう一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。また、季節に応じてゆず湯にするなど、利用者が入浴を楽しむことを大切にして支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活ペースで午睡したり、夜間ゆっくり寝ていただけるように日中の活動に配慮している。夜間眠れない方には、出来る限り話を聞いたり安心して睡眠が出来るように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は、ワーカー室の鍵をかけた棚で保管している。内服介助時は、個人の薬の種類、目的が記載されたボードを確認しながら介助行っている。内服薬変更時は、引き継ぎや申し送りノートを利用し周知徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえの手伝いをいつもしてくれる方、居室で読書される方、花札をされる方、カラオケを歌われる方等それぞれの役割を楽しみごとを見つけ続けていけるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所の中だけで過ごさず、日常的に外出できるように個別の支援を工夫している。本人の希望を聞き外出を行っている。	
			(外部評価) 事業所周辺は自然豊かで、季節の移り変わりを肌で感じながら散歩を楽しむことができる。多彩な年間の外出計画を立て、季節に応じて花見などに出かけられるよう支援している。近隣にある道の駅や温泉に出かけることは、利用者の楽しみの一つとなっている。利用者の高齢化に伴い、外出の要望など利用者から徐々に訴えが少なくなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族よりお金を預かり、事務所で保管しているが、外出時は自分で払っていただけるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 贈り物へのお礼の電話や手紙をかいったりしている。また、携帯電話を持たれている方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感が味わえるような草花を飾ったり、利用者と一緒に飾りを作成している。畳の間には、冬はコタツを置いていた。室温は快適に過ごせるよう調節している。安全面に気をつけるようにしている。	
			(外部評価) 共用空間は明るく広々としており、大きい窓からは、自然豊かな宇和海が眺められ、季節の変化を感じることができる。ソファや畳コーナーがあり、利用者はのんびりと思いきいの場所でゆっくりくつろいでいる。壁には、利用者と職員と一緒に作成した作品を飾っており、心和む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにはソファや畳の間があり、それぞれの場所で過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 安心できる居室づくりのために、使い慣れたものや馴染みのもの、家族が近くに感じられるように工夫している。	
			(外部評価) 居室はベッド、床頭台、エアコン、クローゼットが完備されている。使い慣れた家具や愛用していた物品が持ち込まれているほか、利用者や家族の写真などが飾られ、居心地の良い空間となっている。独居生活で祖先を守ってきた利用者は、居場所が変わっても今までと変わらず仏壇にお供えをするなど、利用者に応じた習慣を続けられており、安心して過ごしている様子を伺うことができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の能力に合わせて、環境整備に努めている。状態の変化に対応できるように職員間で話し合い、今まで生活してきたことをなるべく変えないように工夫している。	